

ニシテモ構文における日中対訳の実証的研究

——KH Coder を用いた可視化分析——

鄒 善軍 李 光赫 趙 海城

要旨

本研究では日本語の「ニシテモ」構文を主題化、強調、仮定条件、確定条件という4分類にしている。そして KH Coder を用いて、日本語形式とその中国語訳との関連度を分析した上で、中日対訳する場合のより正しい翻訳方法をまとめた。「ニシテモ」構文の4分類とその中国語訳10グループとの対応関係を計算した結果、極めて関連度の強い組もあれば、とても強い組もかなりある。その結果を『日本語文型辞典』の記載と対照したら、かなり違いが見られた。本研究は今後の日本語教育や日中対訳研究に役に立つと考えられる。

キーワード

ニシテモ構文 日中対訳 関数検定 KH Coder 関連度

1. はじめに

「ても」形式は逆条件を表す重要な形式として研究対象とされてきたが、その派生した形式であるニシテモ構文は、意味分類においても「ても」と違う用法が見られるため、さらに検討する余地があると言えよう。また、ビッグデータを基にした実証的研究も必要であると思われる。また、先行研究からわかるように、「ても」を研究対象とする対訳研究は多いが、ニシテモなどの複合辞についての研究は主に本体研究であり、対訳研究がまだ不十分であると言える。本研究では先行研究を踏まえ、ニシテモの分類を整理したうえで、『日中対訳コーパス』を利用し、中国語との対応関係に注目し考察してみる。

2. 先行研究

複文の分類において、日本語記述文法研究会(2008)と前田(2009)ではほ

ば一致しており、ニシテモは副詞節の逆条件類であるとされている。

2.1 日本語の逆条件文

日本語記述文法研究会(2008)では、二つの事態の間にある予測された因果関係が実現しないことを表す逆接条件文の従属節が逆接条件節とされている。例えば、次の例(1)と(2)は逆接条件文だと言える。また、「ても」「のに」などによる逆接条件文の従属節は逆接条件節という。

逆接条件節はさらに、主に仮定的な場合を表す逆条件節と、主に事実的な場合を表す逆接節の2種類に分けられると述べている。例(1)ではそれが実現しないだろうという仮定的な意味が表され、逆条件節だと言える。それに対して例(2)ではそれが実現しなかったという事実が表され、逆接節だと言える。

(1) 薬を飲んでも、熱は下がらないだろう。(逆条件節)

(2) 薬を飲んだのに、熱は下がらなかった。(逆接節)

それに、テモ、ニシテモ、トシテモ、ニセヨなどが逆条件節に分類されると述べている。

また、前田(2009)では逆原因文は事実的なリアリティーの逆接を表すのに対して、逆条件文は仮定的な出来事の逆接的な関係を表せるとされている。言い方は異なるが、前田(2009)での逆条件は日本語記述文法研究会(2008)での逆条件節と同じ働きをしていると言える。本研究で注目するのは前田(2009)の「逆条件」であるため、便宜上、逆条件を表す複文を「逆条件文」と呼ぶことにする。

2.2 逆条件を表す複合辞

逆条件文を研究する場合、逆条件を表す複合辞に注目すべきである。日本語には逆条件を表す複合辞が数多く見られる。日本語記述文法研究会(2008)によれば、逆条件節には「ても」、「たって」をはじめ、「としても」、「にしても」、「にしろ」、「にせよ」など数多くの逆条件を表す形式がある。

張北林・李光赫・林樂青(2012)、張北林・李光赫(2013)、張北林・趙海

城 (2014)、張北林・李光赫・趙海城 (2015) など、「ても」に関する対照研究は数多くなされている。本研究では日本語記述文法研究会 (2008) を踏まえて、「ても」ではなく、ニシテモを対象として取り上げ、研究する。

2.3 ニシテモに関連するもの

森田・松木 (1989) では、ニシテモの用法を話題化、強調、仮定条件、確定条件と例示に分類している。

グループ・ジャマシイ (2001) では、ニシテモが人、組織を表す名詞の後に接続する時、中国語で“就算 (即使) ……也”に訳される場合が多い。「仮にここに述べたことを認めても」といった意味を表すニシテモは、常に「いくら、どんなに」などと一緒に使われており、中国語で“即使 ……也”に訳される。そして、「～にしても～にしても」の形式はよく中国語の“无论 ……都, ……也好 ……也好”に訳される。また、ニシテモが疑問詞と一緒に使われれば、中国語でよく“无论 ……”に訳される。最後、「それにしても」の形式は中国語で“可那也 ……，可是 ……”に訳される。ニセヨ、ニシロはニシテモの丁寧な書き言葉であり、ニセヨは中国語で“即使 ……、 ……也好 ……也好”に訳され、ニシロは中国語で“无论 ……都”に訳されると述べているだけで、詳しい用法に触れていない。

李光赫など (2013) では、タツテに「(シ) タツテイイ」、「トイッタツテ / ニシタツテ」などの慣用的用法があるとしている。タツテはテモの口語表現であり、テモに置換できるとされている。したがって、ニシタツテは書き言葉としてのニシテモに当たると指摘している。

日本語記述文法研究会 (2008) では、ニシテモが逆接の仮説条件、反事実条件を表す用法があるとされている。

呉 (2016、2017) では『日中対訳コーパス』によって、普通の数値計算の方法で、ニシテモ、ニセヨなどについての意味用法を説明しており、それらの日中翻訳傾向も分析されている。

以上の研究から以下のような問題点が見られる。森田・松木 (1989) では分類と定義に止まり、実証研究はなされていない。グループ・ジャマシイ (2001) の分類には条件関係が挙げられていない。また、日本語記述文法研究会 (2008) の記述には確定条件が挙げられていない。呉 (2016、2017) で用

いられた普通の数値計算の研究手法はやや古くて、言語使用実態をより正しく反映するには、もっと科学的な研究方法を用いるべきである。よって、ニシテモの意味用法を実証的に再検討する余地があると言える。

3. 研究対象と研究方法

先行研究ではいろいろな分類や説明がみられるが、本研究では、それらを踏まえ、さらに研究対象を絞って分析する。

ニシテモ構文にはいろいろなバリエーションがあるが、本研究では、下記のようなものは研究対象外とする。

- 1) 例示を表す「～ニシテモ～ニシテモ」形式
- 2) 「ニセヨ、ニシロ」のようなあらたまった書き言葉形式
- 3) 「イクラ、ドンナニ、イズレ」などの疑問詞と一緒に使われる場合
- 4) 「(シ) タッテイイ」、「トイッタッテ/ニシタッテ」などの慣用的用法
- 5) 「ソレニシテモ」という慣用的な用法

森田・松木(1989)ではニシテモの用法を話題化、強調、仮定条件、確定条件と例示に分類しているが、そのなかの例示「～ニシテモ～ニシテモ」は並立助詞の働きをするものであり、例示の対象を示す。「AもBも」、「AだってBだって」の意味で複数の対象を並列させて例示する用法で、その例を含めた同類のすべてのものにもあてはまることを暗示する。こう見れば、例示の用法は形式においても、意味論においても、かなりほかの用法と異なっていることが分かる。そこで、本研究では例示を表す用法を対象外とする。

ニセヨ、ニシロはニシテモの改まった書き言葉であると言われているが、普通の表現ではないため、今回は研究の対象外とする。また、ニシテモが疑問詞と一緒に使われる場合、性質が異なるため、対象外にしている。

口語表現の「(シ) タッテイイ」、「トイッタッテ/ニシタッテ」及び「ソレニシテモ」などが慣用的な表現であるため、今回の研究対象外にしている。

本研究は、ニシテモの日中翻訳傾向を明らかにした上で、中国語との対応関係を明らかにすることを目的にしている。また、2001年にくろしお出版社より出版された『日本語文型辞典』の中国語の訳本(カシオ電子辞書の中に

収録された辞典である)は中国の日本語学習者に人気があるが、内容がやや古くて、更新する必要があると考えられる。そのため、今回の研究を辞書に掲載した内容と対照しながら、辞典でのニシテモに関する内容を更新すること及び中国の日本語学習者の習得研究に示唆を与えることができると期待している。

本研究ではニシテモとそれに対応する中国語訳の対応関係を研究するために、日中対訳コーパスを作成した。それから日本語原文小説とその中国語訳本から、従来の研究を踏まえてニシテモをキーワードにして日本語のデータを抽出し、選定条件に合わないものを除外した。従来の研究を踏まえて、ニシテモ構文を再分類した上で、その中国語訳を整理した。共起ネットワーク分析を通じて、データを分析し、ニシテモ構文とその中国語訳との対応関係を明らかにする。

4. ニシテモの意味用法

先行研究を踏まえ、本研究ではニシテモの意味用法を「Ⅰ主題化、Ⅱ強調、Ⅲ仮定条件、Ⅳ確定条件」に分類し、日中対応関係を分析していく。本節では、ニシテモの意味用法をまとめ、それぞれ用例を挙げて示す。

4.1 主題化(係助詞の働きをするもの)

森田・松木(1989)によれば、主題化を示す「ニシテモ」は立場・視点の意識から主に人物を題目として取り立てる機能を果たす。「誰その身になって考えると」「誰その立場で言う」との意味である。

- (3) 警察にしても世間を刺激するような動きはとりにくくなるだろうし。／即便是警察也很难做出激怒世人的举动吧。

(東野圭吾『眠りの森』／郑琳 译《沉睡的森林》)

- (4) 水原にしても、この稟議を藤間に上申するのは勇氣がいるはずだ。／就算是水原，想必也需要一点勇气，才能把这件事上报给藤间。

(池井戸潤『下町ロケット』／吕灵芝 译《下町火箭》)

4.2 強調(副助詞の働きをするもの)

森田・松木(1989)によれば、強調を示す「ニシテモ」は「一つ」などの名詞を受けて、ある状況のほんの一部を取り上げて評価を下しながら、それ以外の場合にもそれと同等またはそれ以上の評価がなされる可能性のあることを言外にほめめかす表現である。「をとっても」「に限っても」と言い換えることができる。

- (5) 先ほどから何度も思いだす推理小説にしても、その点については加賀も疑問を抱いているのだ。／即使是刚才想到的那个推理小说，加贺对这一点也一直心存怀疑。

(東野圭吾『眠りの森』／鄭琳 译《沉睡的森林》)

- (6) タバコにしても、以前ほど吸いたいとは思わなくなった。／就连香烟，我也已经不像以前那么想抽了。

(乙一『天帝妖狐』／王华懋 译《天帝妖狐》)

4.3 逆接条件の仮定(接続助詞の働きをするもの)

森田・松木(1989)によれば、逆接条件の仮定を示す「ニシテモ」は活用語の終止形、その他のものはすべて連体形(形容動詞は語幹)を受け、ある未成立の事柄を条件として仮定する表現である。一步譲ってその条件を認め、それとは相反・矛盾する、非連続的な後件が次に展開することを示す。「(~ではないと思うが)たとえ~であると仮定しても」の意である。

- (7) 同じ家を離れるにしても、もう少し優しい方がいい方があるように思う。／即使要离开家，完全可以采取更加温和的方法。

(渡辺淳一『流水への旅』／陸求实 译《流冰之旅》)

- (8) 老いて、病いをかかえた身体を奮い立てて支えるにしても限度がある。／即使是拖着衰老多病的身子来勉强维持，也终归有限。

(森村誠一『野性の証明』／何培忠等 译《野性的证明》)

4.4 確定条件の仮定(接続助詞の働きをするもの)

森田・松木(1989)によれば、逆接条件の仮定を示す「ニシテモ」は活用語

の終止形、その他は連体形（形容動詞は語幹）を受け、ある既成立の事柄を条件として提示する表現である。一步譲ってその事実を認めた上で、それとは相反・矛盾する、非連続的な後件が次に展開することを示す。

- (9) 七千円を手にしても、晴れやかな気分にはなぜかなれなかった。
／虽说七千日元到手了，可不知怎的葵一点也不高兴不起来。

（角田光代『対岸の彼女』／刘璐 译《对岸的她》）

- (10) 大学生用のアパートである。そう立派ではないにしても、小ぎれいな造りだ。／这是大学生专用的公寓，虽不豪华，却小巧精致。

（赤川次郎『三毛猫ホームズの恐怖館』／葉蕙 译《三色猫恐怖馆》）

5. ニシテモの意味用法分布と翻訳傾向

5.1 ニシテモ構文の意味分類とその翻訳傾向

本研究では「ニシテモ」とそれに対応する中国語訳の対応関係を分析するために、近年出版された日本語のベストセラー 164 冊とその中国語訳本を選択してコーパス¹を作成した。日本語原文小説とその中国語訳本から、従来の研究を踏まえてニシテモをキーワードにして日本語のデータを抽出し、選定条件に合わないものを除外した。作業した結果、164 編の日本語原文の小説からニシテモ文の使用例を 782 例抽出し、その訳文と併せて合計 1564 例の対訳例を統計対象にした。

ニシテモ構文の分類は従来の研究を踏まえて、「Ⅰ主題化、Ⅱ強調、Ⅲ仮定条件、Ⅳ確定条件」という 4 つにした。訳文にある中国語表現を意味と形式が類似したものを一つのグループにし、全部で、①即使、②如果、③虽然、④尽管、⑤不管、⑥但、⑦对来说、⑧也、⑨时、⑩無標といった 10 グループに分けた。ニシテモ構文の 4 分類とその 10 グループの中国語表現の対応関係及びそのデータをまとめると表 1 のようになる。

¹ 1980 年代以降（村上春樹など）の小説を含み、主に 1990 年代から 2010 年代に書かれた小説を集めた。

表1 ニシテモ構文日中対応関係とその用例数

	① 即使	② 如果	③ 虽然	④ 尽管	⑤ 不管	⑥ 但	⑦ 对来说	⑧ 也	⑨ 时	⑩ 無標	合計
I 主題化	24	0	0	0	0	0	39	138	0	91	292
II 強調	20	2	0	0	0	0	11	32	2	32	99
III 仮定条件	157	11	13	8	3	10	0	22	5	51	280
IV 確定条件	28	1	38	13	0	6	0	9	2	14	111
合計	229	14	51	21	3	16	50	201	9	188	782

表1の中国語の分類は意味と形式が類似したものを一つのグループにして得られたものである。その意味形式の分類により、ニシテモ構文の中国語訳を10種類(文末付録参照)に分類した。

5.2 ニシテモ構文と対応する中国語表現の共起ネットワーク分析

本稿では、782例のニシテモ構文とそれに対応する中国語訳の782ペアの日中対訳例を用いて共起ネットワーク分析を行う。例えば、(11)は日中対訳のペアであるが、日本語の原文とその中国語の訳文を一つの文章と見なした場合、前件が日本語の原文、後件が中国語の訳文である。即ち前件は中心語が現れた文、後件は共起語が現れた文になる。そうなると前件である日本語の原文(11a)がニシテモ構文の意味分類として[Ⅲ 仮定条件]であり、後件である(11b)が中国語訳パターン“①即使”である。つまり、この日中対訳ペアの(11)を中心語であるニシテモの用法とした[Ⅲ 仮定条件]と中国語の“①即使”が共起した文と見なすことができる(12)。

(11) a. 突き落とされるにしても、精いっぱい抵抗してからだ。

(森村誠一『黒い墜落機』)

b. 即使被推下去之前，也要死命地抵挡一番。

(吕立人 译《黑色飞机的坠落》)

(12) (11a) 前件 [Ⅲ 仮定条件]、(11b) 後件 “①即使”。

(中心語)

(共起語)

こういった考え方(日本語意味分類が中心語で、中国語訳パターンが共起語

である)で782ペアの日中対訳例の対訳関係を集計したものが前掲の表1である。本稿の主な目的は日中対訳関係のグループ分けである。それで中心語(日本語の意味分類)と共起語(中国語訳パターン)の立場から表1のデータを用いて共起ネットワーク分析を行った。つまり、下記の図1²はニシテモ構文の対訳データを共起ネットワーク分析したものである。

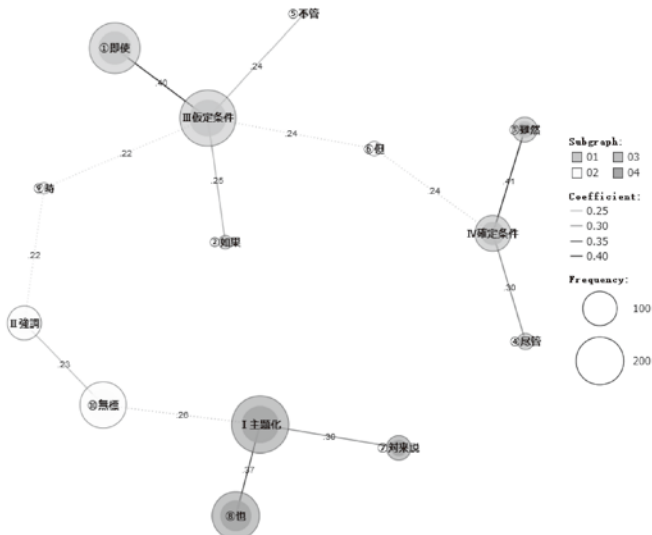


図1 ニシテモ構文日中対訳例の共起ネットワーク図

図1はニシテモ構文の対訳データを、KH Coderの共起ネットワーク分析でEuclid(ユークリッド)を用いて作った図である。ニシテモ構文の意味用法を4分類しているが、共起ネットワーク分析した結果は、四つのグループに分けられている。さらに関連度が特に高いもののみをプロットし、線で結

2 ○円の大きさはその言葉が登場した回数を表す。大きいほどたくさん出現している。
○円の色が同じもの同士=結び付いている言葉を自動検出して分類したものである。
○同じ色同士=サブグラフ、実線=同じサブグラフ、破線=異なるサブグラフで結ばれている。
つまり、同じ色同士が実線で結ばれて一つのグループを作っている。違うグループと関連がある場合は破線で表示される。
○結果の解釈=大きく分けて日本語の意味分類四つとそれに対応する中国語訳がはっきりわかる。

んだものである。ここで、重要なのは、線で結ばれているかどうかである。お互いに比較的強く結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを行い、その結果を色分けによって示している。ゆえに、共起関連度が高いものは線で結ばれている。実線で結ばれているものは同じ色で同一グループになっている。KH Coderの開発者は係数の基準として、「0.1以上は関連度があり、0.2以上は強い関連度があり、0.3以上はとても強い関連度がある」と定義している。

図1から下記のようなことが読み取れる。

No.1: 「Ⅰ主題化」は「⑧也 (0.37)」、「⑦对来说 (0.30)」と同じ組になっているが、係数はすべて0.3以上であるため、とても強い関連度を持っている。また、バブルの大きさ(292例)から見ても、「Ⅰ主題化」の用法はニシテモ構文の最もよく使われる用法であると言える。

No.2: 「Ⅱ強調」は「⑩無標 (0.23)」としか同じ組になっていない。「Ⅱ強調」は基本的に無標という形で訳されていると言える。

No.3: 「Ⅲ仮定条件」は「①即使 (0.40)」、「②如果 (0.25)」、「⑤不管 (0.24)」と同じ組になっている。「①即使 (0.40)」は係数が0.40になっているので、極めて関連度は強い。それで、「Ⅲ仮定条件」の「ニシテモ」は普通「即使」に訳するのであろう。ほかに、「②如果 (0.25)」、「⑤不管 (0.24)」も強い関連度を持っている。また、バブルの大きさ(280例)から見たら、「Ⅲ仮定条件」の用法はニシテモ構文のよく使われる用法であると言える。

No.4: 「Ⅳ確定条件」は「③虽然 (0.41)」、「④尽管 (0.30)」と同じ組になっている。「③虽然 (0.41)」は係数が0.40以上になっているので、極めて関連度は強い。また「④尽管 (0.30)」とはとても強い関連度を持っている。そのため、両方とも「Ⅳ確定条件」の代表的な用法であると言える。

ニシテモ構文には四つの意味用法があるが、図1から見れば、「Ⅰ主題化」と「Ⅲ仮定条件」は最もバブルが大きいことが分かる。言い換えれば、「Ⅰ主題化」と「Ⅲ仮定条件」はニシテモ構文の最も主要な使い方であると言える。

6. 『日本語文型辞典』との対照

『日本語文型辞典』では、ニシテモについて以下の五点が記載されている。

その一、Nにしても：

名詞(N)の後に接続し、「それ以外にも同じ状況があるが、この人あるいは物にしては、多くの状況から一つ取り上げ、ほかもきっと同じだろうと強調する」という意味を表す。中国語では“就算……也、即使……也”に訳される。

その二、N(である)／A／Vにしても：

「仮にここに述べた事態を認めるとしても」という意味を表す。中国語では“即使……也”に訳される。

その三、N／Vにしても N／Vにしても：

同類あるいは対立のことを二つ取り上げ、「どちらも」の意味を表す。中国語では“无论……都、……也好……也好”に訳されている。

その四、疑問詞+にしても：

「いずれ、誰、何」などの疑問詞と一緒に使われ、「どんな場合でも」、「誰でも」の意味を表す。中国語では“无论什么情况”“无论是谁”に訳される。「いずれにしても」の形式はよく“总之、无论怎样、反正”に訳される。

その五、それにしても：

「たとえこの要素を考えたとしても」という意味を表す。中国語では“可那也……、可是……”に訳される。

上記の「その三」、「その四」、「その五」は今回対象外にしているため、「その一」と「その二」だけを、本論でのニシテモと対照する。すると、表2のようになる。

表2 ニシテモに関する『日本語文型辞典』との対照

日本語文型辞典の分類		本研究の分類	
形式	中訳法	意味用法	中訳法
Nにしても	即使／就算 p, 也 q	確定条件	虽然 p, q
			尽管 p, q
N(である) ／ A ／ Vにしても	即使 p, 也 q	假定条件	即使 p, q
			如果 p, q
			不管 p, q
		主題化	p, 也 q
			对 p 来说 q
		強調	無標

『日本語文型辞典』におけるニシテモについての意味分類には「主題化」と「強調」の用法が提示されていない。また、確定条件のニシテモにおいて、『日本語文型辞典』ではニシテモの中国語訳が“即使 / 就算 p, 也 q”に訳されているが、本研究では“虽然 p, q”“尽管 p, q”に訳されていることが分かる。假定条件のニシテモにおいて、『日本語文型辞典』では“即使 p, 也 q”に訳されているが、本研究では“即使 p, q”“如果 p, q”“不管 p, q”に訳されていることが分かる。両方には違いが見られたが、主に“即使……”に訳されていることは一致している。

7. おわりに

本稿は、ニシテモ構文の4分類とその中国語訳10グループとの対応関係を記述したものである。KH Coderを用いて分析した結果、ニシテモ構文とその対応している中国語訳と強い関連度のあるペアを明らかにした。また、関数検定を通して得られた結果を『日本語文型辞典』での記述と対照分析してみた。

『日本語文型辞典』にはニシテモの「主題化」と「強調」の意味用法が載っていない。また、確定条件のニシテモにおいて、『日本語文型辞典』と本研究の中国語訳傾向には違いが見られた。假定条件のニシテモにおいて、『日本語文型辞典』と本研究には違いが見られたが、主に“即使……”に訳されていることは一致している。

付録

ニシテモ構文の中国語訳 10種類：

- “①即使”の場合：“光是，就”“即便”“即便，但”“即便，也”“即便如此”“即使”“即使，但”“即使，但是”“即使，都”“即使，还是”“即使，可也”“即使，仍”“即使，仍然”“即使，也”“即使，依旧”“即使，依然”“即使，而”“即使，却”“就，无非是”“就连，也”“就连，也”“就是”“就是，也”“就算”“就算，但”“就算，还是”“就算，可是”“就算，也”“就算拿，来说”“连对，都”“哪怕，也”“哪怕，都”“宁可，也”“纵令”“纵然，但”“纵然”“纵然，但是”“纵然，也”“纵使”“纵使，也”“纵有”などの形式も入っている。
- “②如果”の場合：“假设，但”“如果，的话”“如果，就”“如果，也”“如果说，也”“若”“若是”“若说”“要，的话”“要，又”“要是，也”などの形式も入っている。
- “③虽然”の場合：“固然，不过”“虽，但”“虽，但是”“虽，却”“虽，也”“虽然”“虽然，但”“虽然，不过”“虽然，但却”“虽然，但是”“虽然，可”“虽然，可是”“虽然，但是”“虽然，还是”“虽说，但”“虽说，但也”“虽说，可”“虽说，也虽说”“虽说，不过”“虽说，可是”“虽则，然而”などの形式も入っている。
- “④尽管”の場合：“尽管”“尽管，不过”“尽管，不过却也”“尽管，但”“尽管，但是”“尽管，但是却”“尽管，却”“尽管，而”“尽管，也”などの形式も入っている。
- “⑤不管”の場合：“不管，都”“不论，都”などの形式も入っている。
- “⑥但”の場合：“但是”“不过”“可”“可是”“却”“然而”“只是”などの形式も入っている。
- “⑦对来说”の場合：“从，来看”“从，来说”“对”“对，而言”“对，而言也”“对，来说也”“对于，来说”“好比，就是”“就，而言”“就，来说”“就好比”“就拿，来说”“就拿，来讲”“就说”“就以，为例”“例如，也”“拿，来说”“拿，来说也”“说起”“以，而言”“再说”などの形式も入っている。
- “⑧也”の場合：“也是”“都”“还是”“既已，还是”“亦”“又”などの形式も入っている。
- “⑨时”の場合：“当，时候，也”“后，也”“在，之前”“在，中”“之后”などの形式も入っている。
- “⑩無標”の場合：ニシテモが完全に訳されていない場合である。

参考文献

〈日本語〉

- 安善柱 (1997) 「逆接条件文に関する一考察—その論理構造をめぐる—」『筑波応用言語学研究』(4) pp.55-68.
- グループジャマシイ (2001) 『日本語文型辞典 (中文版)』くろしお出版.
- 呉迪・林楽青 (2016) 「逆接複合辞ニシテモにおける日中対照実証的研究」『研究会報告 (連語論研究 V)』(39) pp.137-145.
- 呉迪・孟慶榮 (2017) 「偏差値から見る逆接を表す複合辞についての研究 — ニシテモとニセヨの比較を中心に」『研究会報告 (連語論研究 VII)』(41) pp.150-157.

張北林・李光赫 (2013) 「“総括”と“類同”から見たテモ譲歩文のモノの作用域」『応用言語学研究論集』(7) pp.40-48.

張北林・趙海城 (2014) 「関数検定から見たテモ文の日中対照研究」『明星大学研究紀要 人文学部』(50) pp.33-34.

張北林・李光赫・趙海城 (2015) 「テモ譲歩文の文法化と主観化 — 日中対照の立場から」『明星大学研究紀要 人文学部』(51) pp.89-99.

日本語記述文法研究会 (2008) 『現代日本語文法 6 - 第 11 部複文』くろしお出版.

前田直子 (2009) 『日本語の複文 条件文と原因・理由文の記述的研究』くろしお出版.

森田良行・松本正恵 (1989) 『日本語表現文型 - 用例中心・複合辞の意味と用法』アルク出版.

〈中国語〉

李光赫・張北林・张建伟 (2012) 《条件复句的日汉对比研究》世界图书出版社.

李光赫・張北林・林乐青 (2014) 《复句日汉对比实证研究》世界图书出版社.

邢福义 (2001) 《汉语复句研究》商务印书馆.

張北林・李光赫・林乐青 (2012) 〈“逆条件”テモ句式的日中対照研究〉《语文学刊(外语教育教学)》(11) pp.21-22.

付記

本研究は中国遼寧省社会科学規画項目重点項目『基於媒体輿論語料庫的漢語複句日訳体系構建と応用』の成果の一部であり、また、第十一批外国語教育基金の重点課題『基於擴展意義單位模型的中日韓同形近義詞的搭配特点和語義韻対比研究』(ZGWYJYJJ11Z036) 段階成果、及び JSPS 科研費(若手研究)「中国人日本語学習者の習熟度別作文コーパス構築及び母語転移に着目した習得実態の研究」(19K13242) の研究成果の一部である。